

事業名	奥秋田サスティナブルツーリズムプロジェクト		担当部課名
総合戦略 基本目標	基本目標1 産業振興による仕事づくり 1-④ 観光・レクリエーションの振興		観光課観光振興係
交付金 種別	新しい地方経済・生活環境創生交付金[第2世代交付金] (旧:デジタル田園都市国家構想交付金[地方創生推進タイプ])		
事業目的	近年の観光の動向として、観光目的地選定の要因のひとつとしてサスティナビリティが挙げられ、特に外国人観光客や修学旅行・教育旅行においては、その度合いが高くなっている。当エリアは鉱山技術を活かした家電リサイクルや有価金属リサイクルなどのリサイクル産業が盛んな地域であるものの現状は施設見学等にとどまっているため、当地域の歴史的背景を組み合わせることによる顧客体験の向上に大きな余地を残している。またエリア内には十和田八幡平国立公園や「北海道・北東北の縄文遺跡群」のひとつである伊勢堂岱遺跡を有しているほか、狩猟文化＝縄文を連想させる「マタギ」などがあり、エコツアーなどの新規顧客獲得に当たり、優位性がある。観光消費額をあげる新たな戦略として、当エリアの強みである自然と古の先人による世界遺産や、地域産業に根差したサスティナブルな取り組みを、レジャー観光だけでなく教育、企業研修等様々なニーズに合わせて再編集することで付加価値を向上させ、新たな稼ぐ観光を構築するものである。		

事業費	総事業費 29,374,410円	交付金実績額 7,920,808円
-----	---------------------	----------------------

NO	KPI(重要業績評価指標)
①	地域への経済波及効果(百万円)
②	教育市場(修学旅行・教育旅行・留学)収入(千円)
③	農家民宿関連(農泊・農業体験・きりたんぽ作り体験等)収入(千円)
④	来訪者の地域のサスティナブルな取り組みに対する評価(5段階評価)(ポイント)

KPI	目標値 ※4市町村全体の数値									
	実績値 ※4市町村全体の数値									
	年度	R4	年度	R5	年度	R6	年度	R7	年度	R8
①		11,387		11,929		13,014		14,099		15,184
		***		16,468		20,950		—		—
②		1,564		1,991		2,844		3,697		4,550
		4,089		4,768		7,665		—		—
③		780		993		1,418		1,843		2,268
		2,447		2,881		3,385		—		—
④		3		3		3		3		3
		4		4		4		—		—

事業の概要(一覧表BS列)	
国内外のマルチクラスをターゲットとした、環境・文化の振興を志向するすべての人々を対象に、『未来に向けて自然と暮らしを守り、活かし、つなげる。恒久なる時空を超えた、成長する・貢献する旅づくり』をコンセプトに、北奥羽の広域的な連携による相互の発着型観光となる「旅づくりの拠点」整備と、『環境にやさしい、身体にやさしい、人にやさしい奥秋田』をコンセプトに、「環境、産業、教育、文化、自然」などの様々な分野に当エリアの強みであるサスティナブルを付加価値として新たに加えた、モノ(商品)とコト(観光)を開発し、「稼ぐ観光、豊かな暮らし」に繋げるものである。 具体的な取り組みとしては、「①エコツーリズムを核とした新たな市場開拓と稼ぐ仕組みづくり」、「②観光を活用した地域の自然・文化・経済の持続可能性向上のための態勢整備」を事業目的の柱とする。	

◆担当部署による自己分析(各項目5点満点、総計45点満点)

妥当性評価	12	有効性評価	12	効率性評価	10
市が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	4
市民のニーズは高いか	4	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	3
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	4	受益者負担は適当か	3

総合評価	今後の方向性	事業の取組状況と今後の対応方針について(入力シートBT列)
34	現行のまま継続	令和6年度は、台湾市場の訪日リーピーターをターゲットに、台湾で開催された「日本東北遊楽日」へ出展し、海外でのPRIに取り組んだ他、外国人インフルエンサー招聘事業を行うなど、秋田県北地域の魅力を世界に向けて発信する事業展開を行ったほか、森吉山シャトル(森吉山周遊乗合タクシー)へオンライン予約システムを導入し、多言語に対応するなど、受入体制の充実を図った。 今後は、近隣DMOと連携した受入れ体制づくりを進めていく他、アクティビティの磨き上げを行うなどして、観光消費額の拡大を目指しながら、持続可能な観光地域づくりに取り組んでいく。

以下は検証会議で使用

◆検証会議による客観的検証

妥当性評価	12	有効性評価	12	効率性評価	11
市が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	4
市民のニーズは高いか	4	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	4
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	4	受益者負担は適当か	3

【参考:評価基準】

総合評価	検証会議による評価	【検証会議 評価基準】	
35 ／45	B	A かなりの効果がある B 相当程度の効果がある C あまり効果が見られない D 効果が乏しく改善の必要ある	5 4 3 2 1 的り全 切り概 など 余検 適い全 、く、 で、ね い ち が 討、く 最大そ あ効そ ら が・、切、く 適変の る果の と あ改、あ効、く で効と 的、も い善、あ効、く あ果お ・お いる ず、る率、は る 適 え る 不な